

恋するズグロミゾゴイ

○川上和人(森林総研・多摩), 藤田祐樹(東大・生物多様性)
神澤良子(生態工房), 川村七弥, 村上美奈子(森林総研多摩非常勤)

ズグロミゾゴイは、環境省のレッドデータブックにおいて準絶滅危惧種に分類されている。しかし、本種の分布や個体数に関する研究はこれまでにほとんど行われていない。分布や個体数は、種の保全を行う上で必須の基礎的情報である。そこで、本種の分布に関して調査を行った。

本種は、沖縄県八重山諸島の留鳥で、石垣島、西表島、黒島の3島にのみ生息すると考えられている。石垣島と西表島にはズグロミゾゴイが繁殖可能な森林が十分な面積残っており、これらの島は八重山諸島のズグロミゾゴイ個体群の主要な生息地となっていると考えられる。しかし、その周辺には黒島以外にも多くの島があり、黒島にのみズグロミゾゴイが生息するという分布はいかにも不自然である。このため、八重山諸島及び宮古列島の12の主要な島において本種の生息の存否を調査した。

ズグロミゾゴイは、繁殖期の初期である3月中～下旬の日暮れ直後及び夜明け直前に頻繁にさえずる。そこで、さえずりを記録することで、本種の生息を確認した。同時に、日中の目視による個体の観察、ヒアリング調査も行った。また、非繁殖期にも目視による個体の探索を行った。調査地は、八重山諸島の石垣島、西表島、黒島、小浜島、竹富島、波照間島、与那国島、宮古列島の宮古島、伊良部島、来間島、池間島、多良間島である。

この結果、12の島のうち、10島でズグロミゾゴイのさえずりが確認された。さえずりは繁殖行動の一部であるから、これまで考えられていた3島以外の島でも繁殖している可能性がある。これまで分布が狭いと考えられていたのは、十分な調査が行われていなかったためと考えられる。